

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料400円

智永 真草千字文



1、字句「女慕貞黎」

2、形式「半紙タテ使用。右に「女慕」、左に「貞黎」と臨書し、左余白に落款

「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。

3、概観「智永千字文(草書)の特徴を考えてみたい。最大の特徴はもろろん肉筆であるということです。さらに文字の大小・線の太細の変化が著しく、一行一〇字の上部では大きく大きく、下部では文字間に余裕がなく、小さく細くなる傾向にあります。この傾向は中ほどから後半に顕著にみられます。関中本が穏やかなのに比べ、真蹟本は変化に富むリズムカルな書といえます。起筆においても楷書的な打ち込みもあり、細く鋭いものあり、逆筆的な入筆により弾力を生かした起筆もあります。起筆だけでもこのように多彩な用筆が見られます。

4、各字のポイント

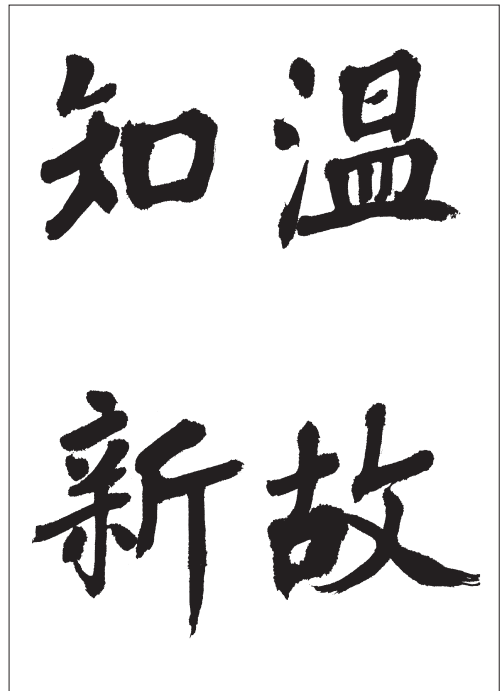
女 一画目太く、強い線。二画目とは対照的。二画目△で裏面を使い、○部で表面にかえす。

慕 二画目の左払い(点)は被せるように。三画目強く入筆し徐々に筆を引き上げながら転折。以後は直線的な動き。：部分の丸い余白を広く。

貞 二画目太く運筆。左に開き△部で面の切替え。

黎 一画目二画目軽く入筆。線の中央部膨らみを持つ。△部面の切替え。○部では筆を引き上げ余白を取りながら曲線で。「糸」偏の点は幅広く。

半紙課題(予告) (六月二十二日締切)



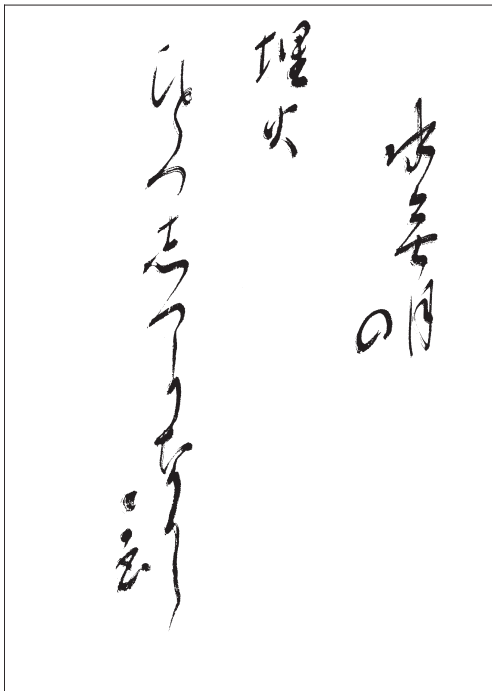
平岡華雪先生書

故きを温ねて新しきを知る(論語)

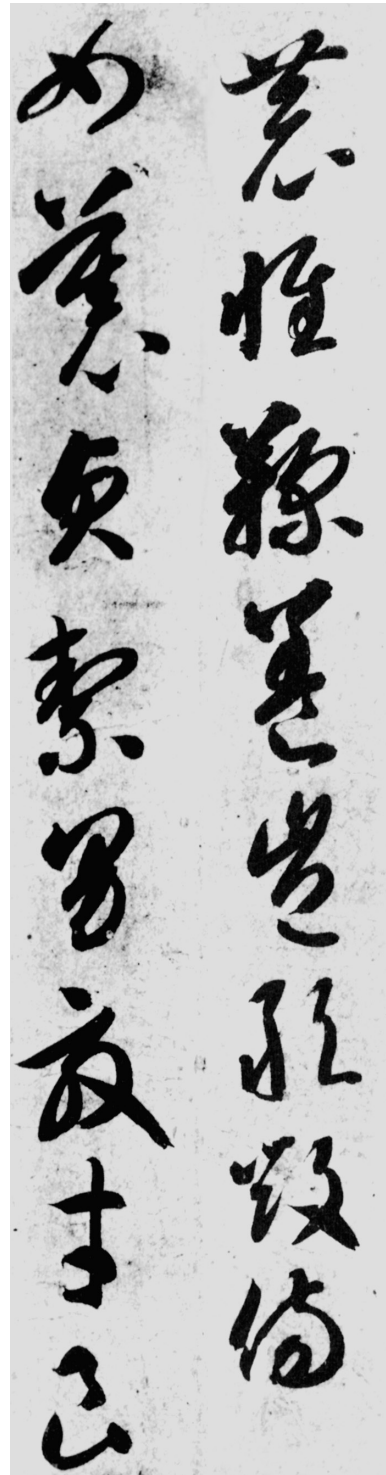
訳：すでに学んだことをよく研究してこそ新しい道理がわかる。

平岡華雪先生書

みなつきの埋火ひとつしづかなり(暁臺)



智永 真草千字文



(参考)

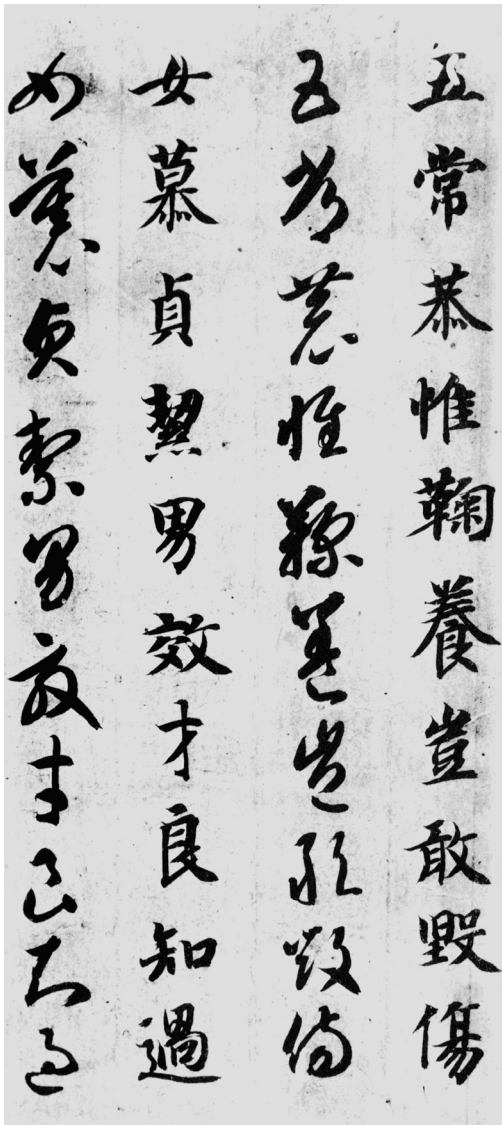
恭惟鞠養。豈敢毀傷。女慕貞絜。男效才良。

条幅臨書部は半紙臨書部と連動することになりました。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。

▽出品料無料。



◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

A  
高橋香樹先生書

山色湖光設朝供 竹影松陰生午涼 (房暉)  
山色湖光朝供を設け竹影松陰午涼生ず。



B  
高橋香樹先生書

連綿をせずに流れをつくることはできないかとの思いで書いてみました。その為には、文字形を正方形や長方形につくるのではなく、三角形、台形、ひし形などに変えていかなければなりません。始めは、一行目八字詰めで試みましたがうまくいかず、九字としました。



今までも何回か楷書で書いていますが、その月出品作に楷書が数多く見られたので今回も楷書作としました。字粒が少し大きいかと思いますが、なかなか小さくなりません。「設」は色々な形があります。字典にあたって書いて下さい。  
訳：山の影や湖水の影を見ては朝の食事をすまし、竹の色や松の小かけにはまひるにも涼しい気がする。

予告 (六月二十二日締切)

萬里雲霄歸鳥盡

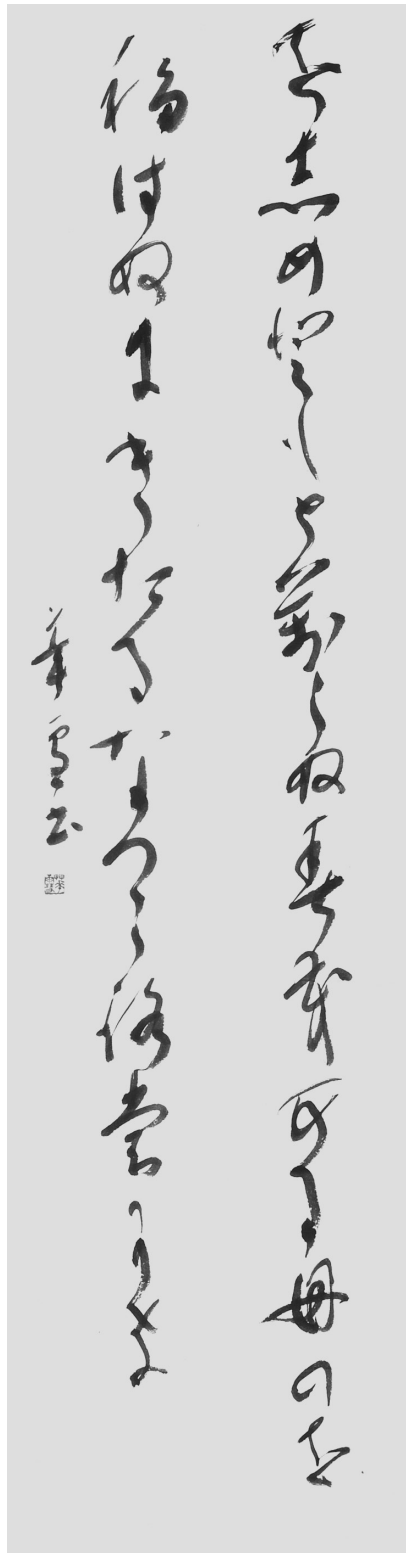
孤村風雨落花深 (虞集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

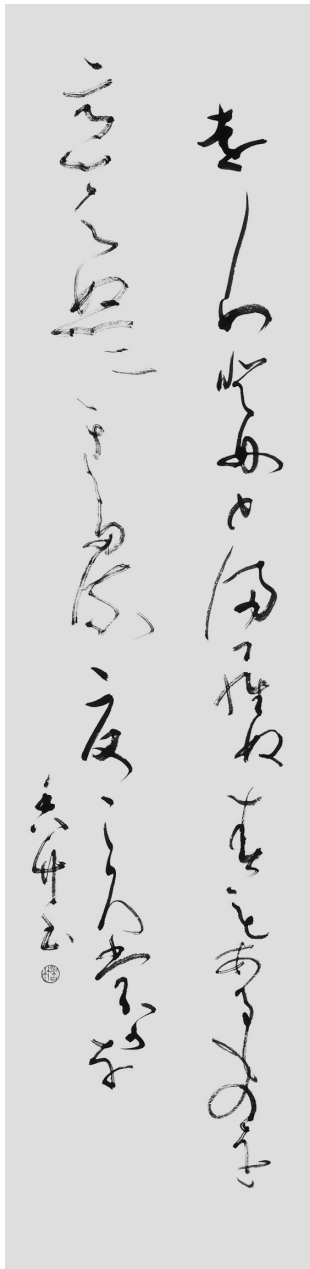
をしめどもとまらぬ春もあるものをいはぬにきたる夏衣かな (新古今和歌集 素性法師)  
を志め登もと萬らぬ春茂ある母のを移はぬルきたるなつこ路裳可奈



B

青柳香竹先生書

遠しめ登母と満羅ぬ春毛あるものを意者怒二き多流夏ころ裳可奈



学び方

訳：いくら惜しんでも春は行ってとどまらぬのに、来いと言わないのに夏は早くも来て、薄い夏の衣を着るようになった。書き始めを低く、二行目を高くなる構成にしました。「遠しめ」は流れのまま、惜しむ気持ち強調し、「満羅ぬ」で幅を出し、「春毛」からは軽目に、そして連綿を使いました。二行目の「意盤怒二」は渴筆で筆をいじめるように力強くを意識し、最後は潤筆で「奈」で傾きをおさえ、収めました。「も」の変体仮名が三つ出て来ます。「母、毛、裳」自分のものに出て来るようしっかり書き込んで下さい。古今集には、春下「惜しめどもとまらなくに春霞かへる路にしたちぬともおもへば」(藤原元方)があります。

素性法師：生没年不明  
僧正遍昭の子良岑玄利、父の勧めで出家した。  
古今集の撰者達からも敬愛され、同集に三十六首の歌が採られた。軽妙、洒脱のうちにも哀感を伴った詠歌が多く、一種独特の詠風をもつ。没時は貫之、躬恒らが哀悼歌を贈ったほど、当時は有名な歌人、三十六歌仙の一人。家集「素性法師集」がある。

予告 (六月二十二日締切)

河原来てひとり踏み立つ午どきの風落ちしかば砂のしじまり(宮 柊二)

- ◆注意
  - ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

条 幅 部 随 意 参 考

手代木春游先生書

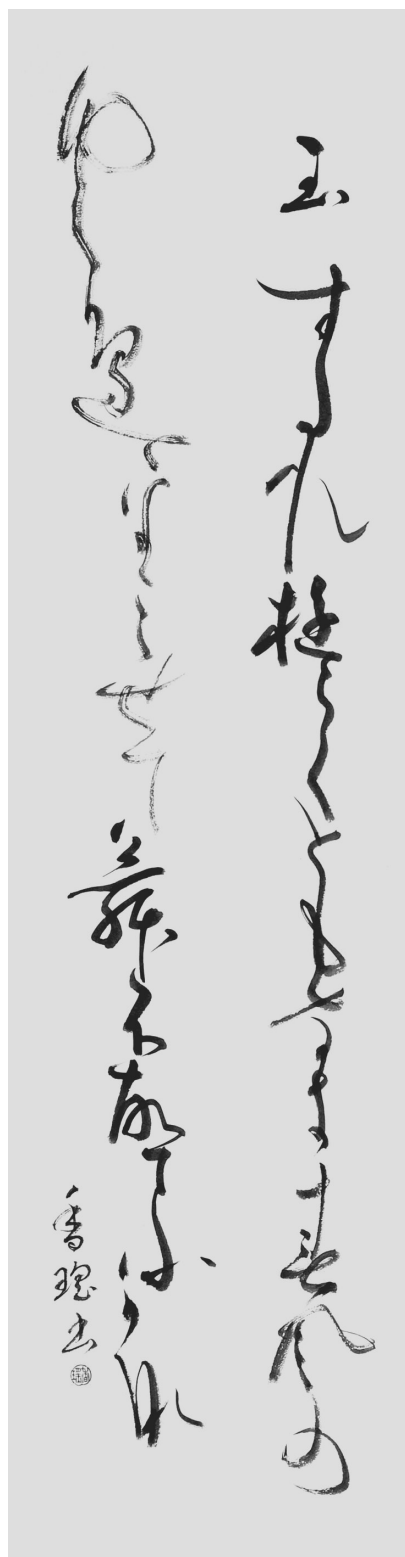
風款飛花入座香（許棊）  
 風款く飛花座に入って香し。



訳：微風にゆるく送られる落花は座敷に落ちて香ばしい。

内藤香瑶先生書

玉すだれゆらぐともなき春風のゆくへをみせて舞ふ胡蝶かな（落合直文）  
 玉すだれ遊らくとも奈支春風のゆく邊乎三せて舞不故てふ可那

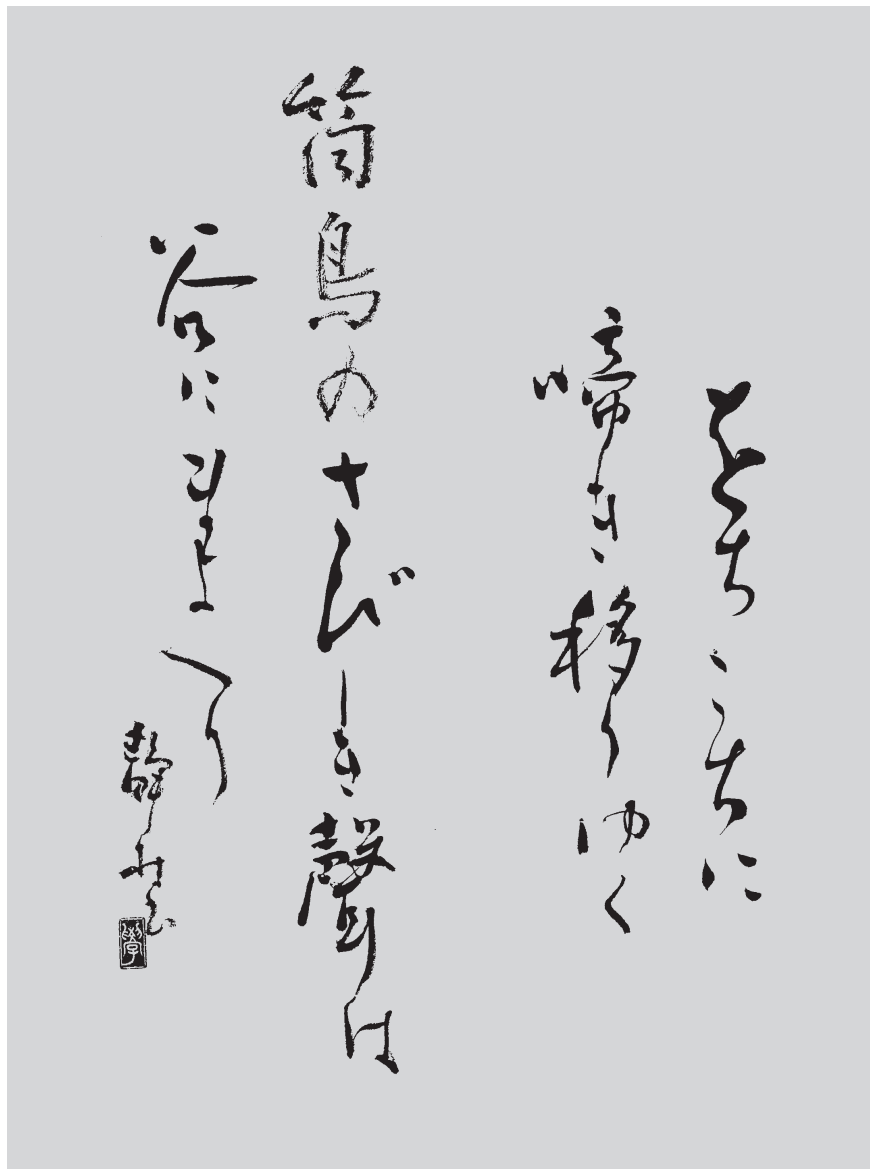


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
  - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

鈴木静村書

二つの集団に分けて

全体を二つの集団に分けたこの散らし形式は私の好みの書き方で、特に漢字かな交じりに限った手法ではない。ただ短歌の句調五七五七七の切れ目で、行替え、句の頭で墨継ぎがよいと思っっている。読み易さを優先したいからである。留意として二つの集団が同じ重さにならないこと。この場合は左集団に重み。もう一つは、二つ目の集団の最初では墨



継ぎをしないということ。ここでは「筒鳥」を渴筆にして、「さびしき…」で墨継ぎ、左集団を強調している。

若山牧水

をちこちに  
啼き移りゆく  
筒鳥の  
さびしき聲は  
谷にまよへり

筒鳥＝わたり鳥の一種

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

竹深く客を留むる処(杜甫)  
訳：竹林の深いところに客を留め、

〈つながりのリズム〉

「深」のし、「留」のし、簡単のように見えても、筆のつながりはたやすくはありません。これは筆の弾みはずみを使ってリズム的に用筆することです。

→ 千 玉 手 秀 玉 叡 處

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

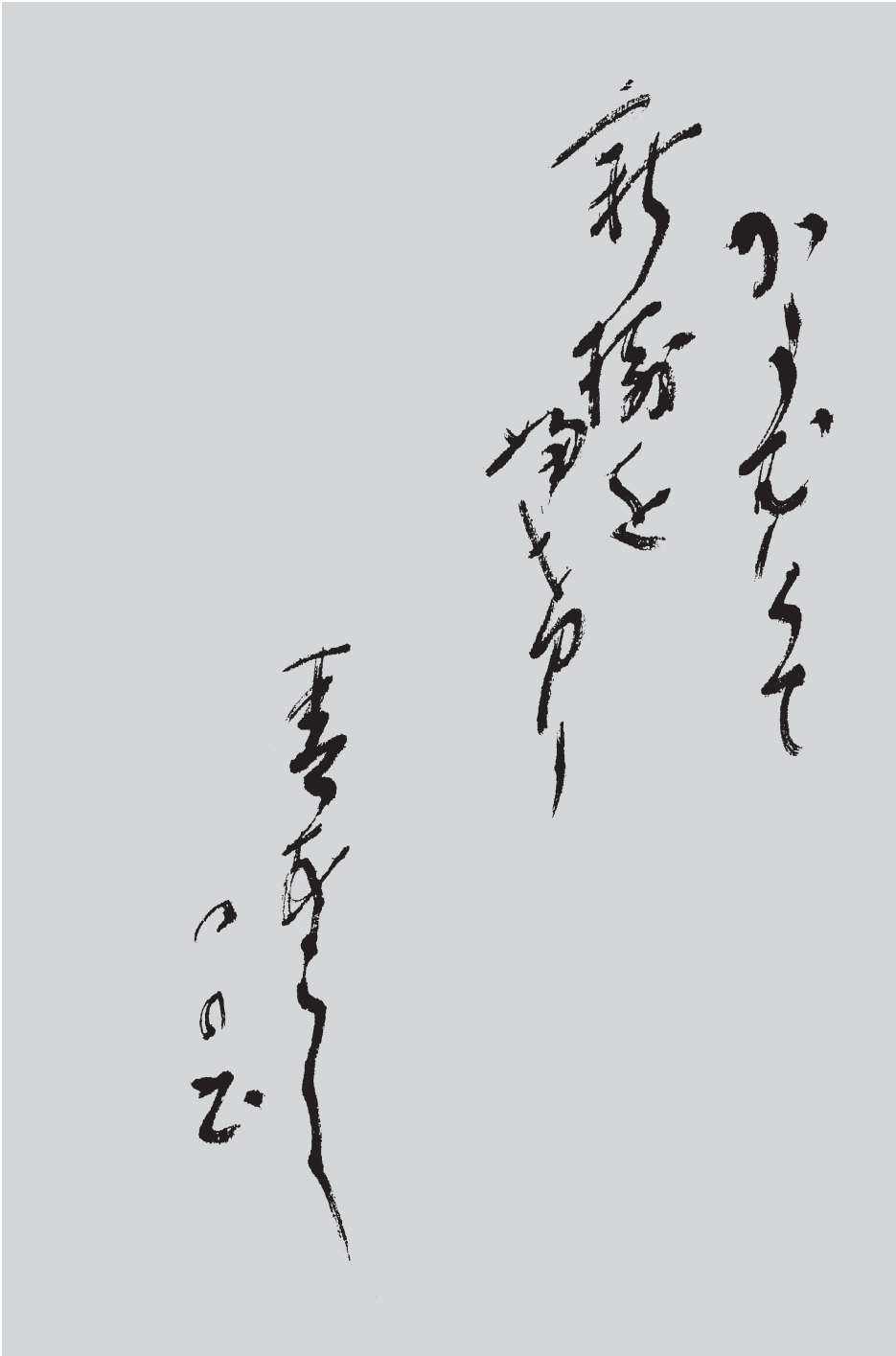


平岡華雪先生書

傾けて新樹を吹けり青嵐(夢六郎)  
か多む<sup>た</sup>介<sup>け</sup>て新樹を婦希<sup>ふ</sup>り青<sup>あ</sup>らし

〈崩し方を明確にして〉  
草書体の崩し、変体ながらも曖昧のまま、書き進めてはいけません。必ず字典で調べ、確実にしてから練習に入ってください。なお、草書体は使用頻度の割合が多いものを使うように。

新新新樹樹書



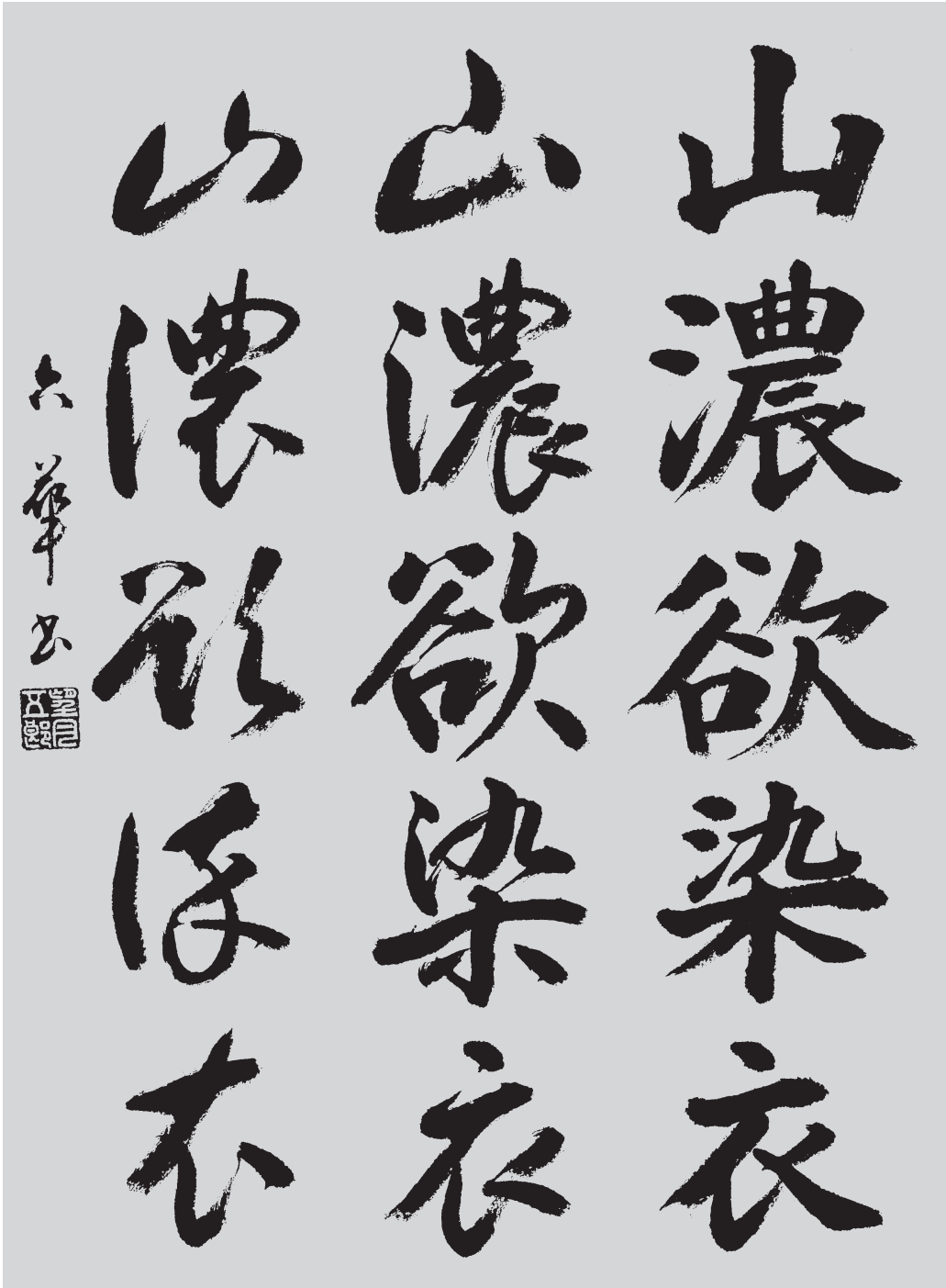
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。



望月六華先生書

山濃欲染衣 (楊萬里)  
山濃やかにして衣を染めんと欲す



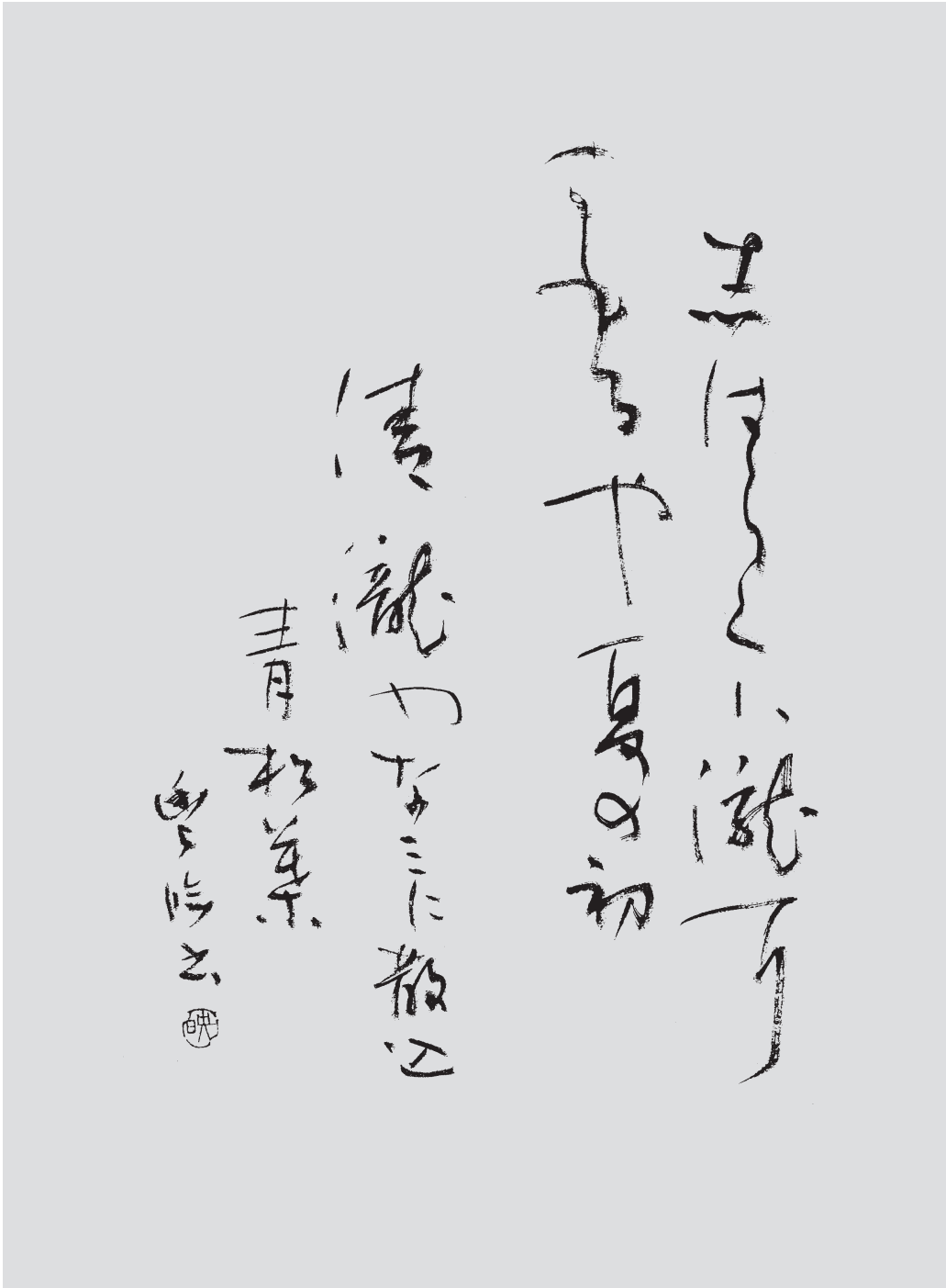
訳：新緑は衣を染むる如くに濃かである。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

俳句二句参考

吉原豊臨先生書

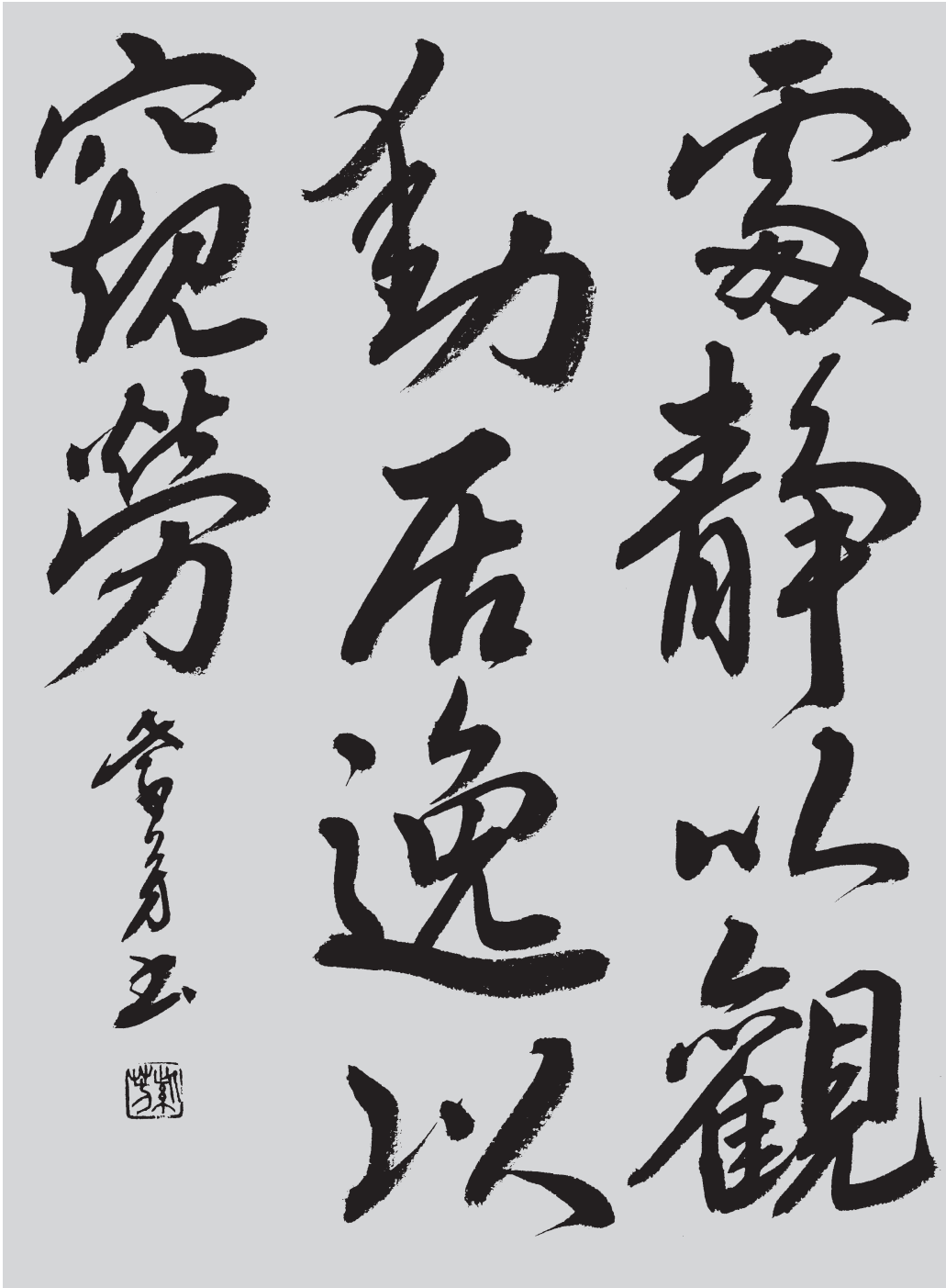
暫時は滝に籠るや夏の初（芭蕉）  
清滝や波に散込青松葉（芭蕉）



◆随意部参考として出品してください。

高橋紫芳先生書

處靜以觀動 居逸以窺勞（歸有光）  
靜に処し以て動を觀、逸に居り以て勞を窺う。

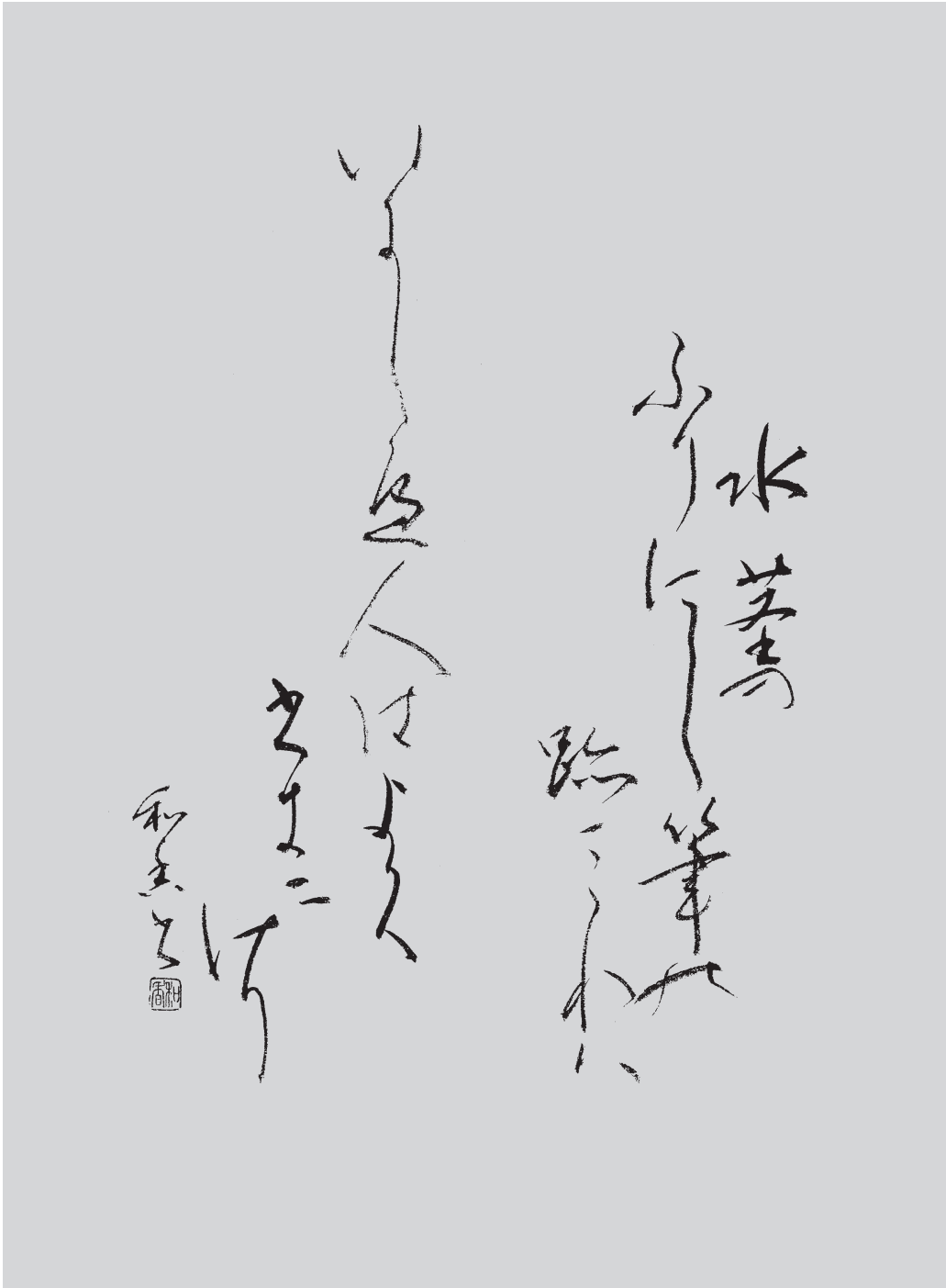


訳：静に居りては動を観察し動に居りては静を観察する、逸と勞とに対してもまた然りである。

添削又は手本希望者は本会規定により、高橋紫芳先生（〒362-0812 埼玉県北足立郡伊奈町内宿台 5-98）に直接お申し込みください。

内  
田  
和  
香  
先  
生  
書

水<sup>みづ</sup>茎<sup>くき</sup>のふりにし筆<sup>ふで</sup>の跡<sup>あと</sup>見<sup>み</sup>ればいにしへ人<sup>ひと</sup>は善<sup>よ</sup>く書<sup>か</sup>きにけり  
水<sup>みづ</sup>茎<sup>くき</sup>のふりにし筆<sup>ふで</sup>能<sup>の</sup>跡<sup>あと</sup>三<sup>み</sup>れ八<sup>は</sup>い<sup>い</sup>るし邊<sup>へ</sup>人<sup>ひと</sup>はよ<sup>く</sup>書<sup>か</sup>支<sup>し</sup>二<sup>に</sup>けり  
(正岡子規)



添削又は手本希望者は本会規定により、内田和香先生（〒426-0045 藤枝市泉町56-7）に直接お申し込みください。

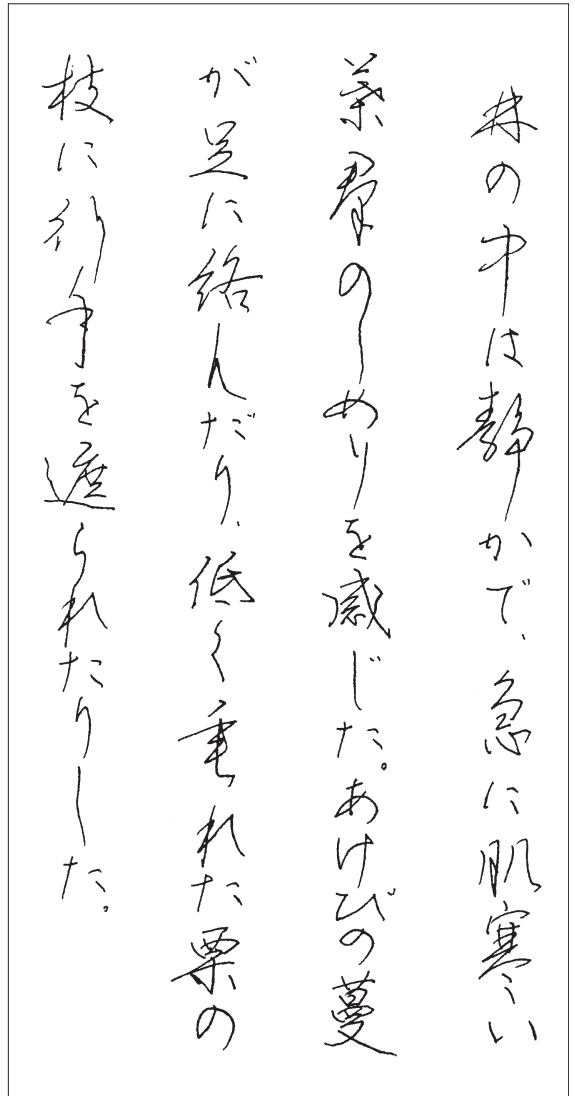
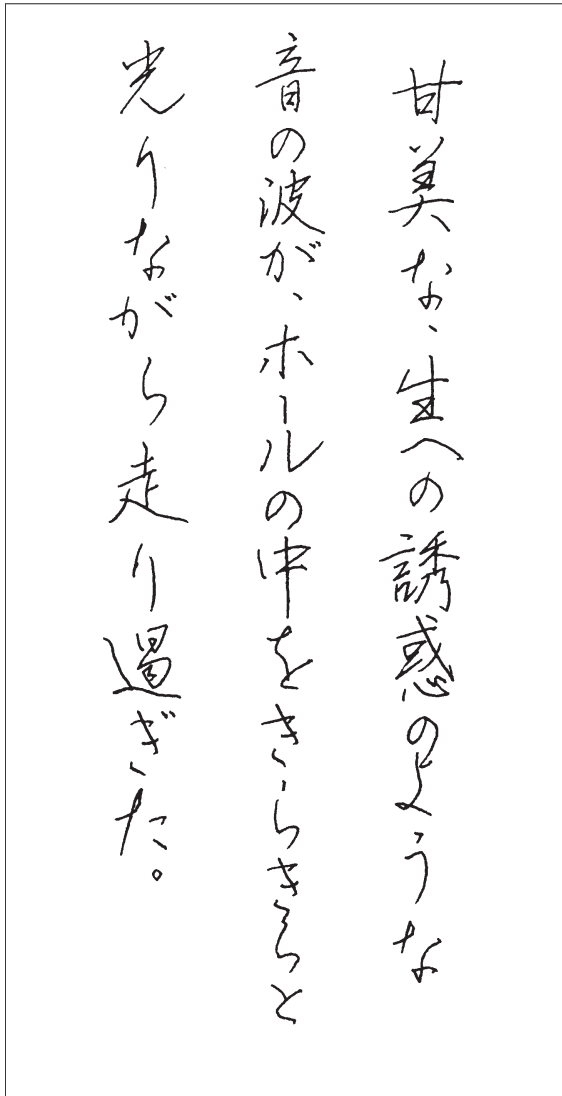
松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

正教授 創作部門 (自運作品、自由形式、硬筆用紙使用) で出品。審査料九〇〇円



課題1 (初段階以上)

林の中は静かで、急に肌寒い葉群のしめりを感じた。あけびの蔓が足に絡んだり、低く垂れた栗の枝に手を遮られたりした。

「草の花」福永武彦

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン (黒色) を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入 (色は黒) はじめて出品される方は私製の紙 (3×4 cm位に) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)

課題1 六〇〇円  
課題2 三〇〇円

課題1 石原春香先生 ㊦三七〇〇八七

高崎市楽間町二二四ノ二一

課題2 松浦江波先生 ㊦五二〇二四三

相模原市緑区橋本六ノ四一ノ一九

課題2 (初段階以下)

甘美な、生への誘惑のような音の波が、ホールの中をきらきらと光りながら走り過ぎた。

「草の花」福永武彦